



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 定価 1部44円 (購読料は分担金に含む) 題字 井戸知事

消したはず 決めつけないで もう一度

平成二三年度 日本消防協会定例表彰式

平成二三年度日本消防協会定例表彰式が、二月二三日(木)午後一時より日本消防会館ニッショーホールにて盛大に開催されました。

国歌斉唱、消防殉職者に対する黙祷に続き、日本消防協会長の挨拶があり、受章代表者に表彰状が授与されました。その後、総務大臣の祝辞、受章者代表謝

辞があり、万歳三唱により閉会しました。

なお、今年は定例表彰式に引き続き「特別講演が俳優で「消防応援団」のメンバーである菅原文太氏を講師に迎えられました。同氏は、東日本大震災における消防団の活動をあげて「緑の下の力持ち」をテーマに静かにも熱く語られました。



特別表彰まといの授与



会長挨拶 (木村副会長代理)

都道府県消防協会等 役職員永年勤続者表彰 五名 表彰旗(二団) 芦屋市消防団

なお、本県の受章者・団体は次のとおりです。(敬省略)

Table listing award recipients by category: 特別功労章 (10 groups), 優良消防団 (表彰旗) (40 groups), 優良消防団 (竿頭綬) (83 groups), 功績章 (926 groups), 勤続章 (2,214 groups), 優良婦人消防隊 (表彰旗) (7,398 groups), 優良婦人消防隊 (功績章) (16 groups), 特別表彰「まとい」 (10 groups), 特別功労章 (10 groups), 優良消防団 (表彰旗) (40 groups), 優良消防団 (竿頭綬) (83 groups), 功績章 (926 groups), 勤続章 (2,214 groups), 優良婦人消防隊 (表彰旗) (7,398 groups), 優良婦人消防隊 (功績章) (16 groups).





# 平成二三年度消防庁長官表彰

## 県下二消防機関一一七名が受章

平成二四年三月八日(木)、平成二三年度消防庁長官表彰式が、日本消防会館内ニッショーホールにおいて盛大に執り行われました。

消防庁長官からの式辞に続き、長官から各受章者代表者に表彰旗等が伝達されました。その後、日本消防協会会長及び全国消防協会理事長から祝辞、受章者代表者謝辞の後、閉会しました。

受章者の方々は午後から皇居を参観されました。

県下の受章機関、受章者は次のとおりです。

(敬称略・名簿順)



表彰式に出席された皆様

表彰旗  
朝来市消防本部・朝来市消防団

功労章 八名  
明石市消防団 萩野 忠志  
姫路市夢前町消防団 栗林 忠道  
太子町消防団 嶋澤 清美  
神戸市消防局 岡田 勇  
消防正監 濱田 諭  
消防監 藤本 敏己  
尼崎市消防局 本田 良生  
消防監 神戸市消防局 棟長 正昭

永年勤続功労章 一〇九名

神戸市北消防団 庄三  
姫路市家島町消防団 上田 辰雄  
神戸市須磨消防団 高木 優和  
六栗市消防団 春名 玄貴  
神戸市西消防団 山崎 幸雄  
香美町消防団 東 俊一  
副団長 磯田 啓介  
篠山市消防団 尾垣 春夫  
六栗市消防団 岡部 秀明  
淡路市消防団 落井 孝一  
豊岡市出石消防団 加藤 一夫  
豊岡市豊岡消防団 河口 清  
豊岡市竹野消防団 木下 肇  
姫路市香寺町消防団 清瀬 英之  
宝塚市消防団 藏本 直文  
神戸市西消防団 佐伯 尚  
神戸市灘消防団 白井 幸治



消防庁長官 祝辞

淡路市消防団 曾谷 哲也  
副団長 たつの市消防団 田中 稔  
副団長 豊岡市城崎消防団 中井 博文  
副団長 洲本市消防団 中原 章晴  
副団長 養父市消防団 長村 賢一  
副団長 淡路市消防団 中山 丈夫  
副団長 太子町消防団 廣橋 敏彦  
副団長 加古川市消防団 藤原 清  
副団長 姫路市安富町消防団 細野 雅一  
副団長 姫路市夢前町消防団 本郷 貴之  
副団長 姫路市網干消防団 三輪 敏之  
副団長 佐用町消防団 森本 孝吉  
副団長 朝来市消防団 吉野比呂志  
副団長 三田市消防団 新井 泰夫  
副団長 新温泉町消防団 池田 秀好  
分団長 高砂市消防団 伊藤 定雄  
分団長 西宮市消防団 岩野 勝  
分団長 養父市消防団 内田 修  
分団長 加古川市消防団 岡崎 清一  
分団長 伊丹市消防団 堅田 隆雄  
分団長 加東市消防団 川居 利英  
分団長 西宮市消防団 岸 光雄  
分団長 神戸市兵庫消防団 上月 成介  
分団長 尼崎市消防団 佐田 純平  
分団長 相生市消防団 清水 修

芦屋市消防団 田中 伸幸  
分団長 新温泉町消防団 谷村 俊次  
分団長 相生市消防団 田村 圭介  
分団長 尼崎市消防団 辻 邦博  
分団長 赤穂市消防団 中村 裕彦  
分団長 養父市消防団 橋本 信之  
分団長 高砂市消防団 濱谷 一繁  
分団長 明石市消防団 藤田 次男  
分団長 赤穂市消防団 本田 守弘  
分団長 猪名川町消防団 前西 隆彦  
分団長 川西市消防団 向野 清継  
副分団長 三木市消防団 仲植 芳宏  
副分団長 姫路市消防局 吉田 茂  
消防監 神戸市消防局 雲丹亀幸三  
消防監 北はりま消防本部 榑橋 克治  
消防監 宝塚市消防本部 藤原 光浩  
消防司 宝塚市消防本部 山西 修  
消防司 たつの市消防本部 市場 通行  
消防司 明石市消防本部 岩村 義孝  
消防司 明石市消防本部 上谷 節雄  
消防司 北はりま消防本部 内橋 和宏  
消防司 明石市消防本部 内山 満  
消防司 姫路市消防局 梶原 久義  
消防司 伊丹市消防局 柴田 博司  
消防司 北はりま消防本部 下仲 義昭  
消防司令 加古川市消防本部 高井 明  
消防司令 川西市消防本部 橘 政幸  
消防司令 川西市消防本部 鞆井 正彦



表彰式の様子

豊岡市消防本部 中島 幾良  
消防司令 姫路市消防局 中村 隆志  
消防司令 西宮市消防局 中山 一人  
消防司令 尼崎市消防局 藤村 耕一  
消防司令 淡路広域消防事務組合消防本部 細川 正勝  
消防司令 西宮市消防局 眞武 繁俊  
消防司令 伊丹市消防局 松本 三治  
消防司令 明石市消防本部 宮内日出夫  
消防司令 宝塚市消防本部 山本 幸廣  
消防司令 朝来市消防本部 足立 修  
消防司令 尼崎市消防局 岡田 雅博  
消防司令 西宮市消防局 岡野 光雄  
消防司令 三田市消防本部 岡本 和彦  
消防司令 神戸市消防局 覺前 知廣  
消防司令 佐用町消防本部 榑本 雅之  
消防司令 三木市消防本部 久保 仁  
消防司令 姫路市消防局 高坂 幸尚  
消防司令 神戸市消防局 佐藤 義明  
消防司令 芝田 貴邦



日本消防協会理事長祝辞



六栗市消防本部 竹尾 友宏  
消防司令 養父市消防本部 田中 敏久  
消防司令 高砂市消防本部 西谷 昌則  
消防司令 赤穂市消防本部 西山 寛  
消防司令 篠山市消防本部 畑 光明  
消防司令 丹波市消防本部 細見 信高  
消防司令 神戸市消防局 増井 光資  
消防司令 芦屋市消防本部 松代 洋史  
消防司令 美方広域消防本部 向谷 弘一  
消防司令 神戸市消防局 馬越 清照  
消防司令補 重野 昌己  
清水 昌利  
白水 保志  
谷口 忠弘  
茶元 繁昭  
戸田 義博  
野々村芳宏  
藤本 健一  
村上 修三



# 故郷を歩く

## ため池のまち 稲美町

### 稲美町消防団

稲美町は東西南北四市と隣接し、面積は三四・九六平方キロメートル、平成二十三年二月末現在の人口は約三万二千九百人と町では県下三番目の人口を抱える風光明媚なまちです。

町花はコスモスで、秋には町内のいたるところでコスモス畑が訪れた方々を迎えてくれます。

平成二十二年には町制五〇周年を記念し、町のイメージキャラクターを募集し、応募のあった中から「いなっち」に決まりました。「いなっち」は町の特産品である「米」をイメージし、額には町花の「コスモス」、足元にはため池を配しています。町内の各種イベントや広報などに登場しています。

春には、町内各小学校区において桜ウォーキング、夏には加古大池を舞台にした花火大会、秋には稲穂が美しく町内を飾り、町内全域で豊作を祈願した祭りが執り行われます。毎年町内の自治会が交代で当番となり、最後には担ぎ手が神輿ごと天満大池に飛び込む伝統行事が行われます。冬にはとんど大会など四季折々の行事が繰り広げられます。



万葉の森

稲美町の歴史的遺産を保存し、将来の発展に資するため、稲美町郷土資料館が、昭和五八年に設立されました。時代を超えた空間を体験できる稲美町へどうぞお越しください。



稲美町イメージキャラクター「いなっち」

「いなみ野」は当時のいなみ野の中心であり、「万葉の森」は当時のいなみ野と瀬戸内海を形造った日本庭園です。約二〇種類の万葉植物や、「いなみ野」が詠まれた歌碑、庭が一望できる「憩いの館」などがあり、心が落ちつきます。また近くには郷土資料館や、町内の特産品を販売している万葉のみせもあります。「憩いの館」は、稲美町の「ふるさと創生事業」の一つとして平成二年にオープンしました。施設としては、ともに茶室としての設備を整えた萩の間と藤の間を中心とした和風の文化施設です。

「いなみ野万葉の森」に隣接した万葉の館は、茶会や研修会などの集いの時間をお楽しみいただけます。古代印南野のおもかげをとどめる広々とした美しい町、稲美町は急激に開発が進み緑の林や丘が切り開かれ、ため池はつぶされ、人家が立ち並び、地形は変化し、長い伝統を持つ文化や歴史の跡が大きく変容しつつあります。

## われら若手消防団員(47)

### 消防団に入団して

篠山市消防団 第一四分団第三部 部長 細見 裕



私が消防団員になるきっかけは、決して褒められたものではなく、それまで地元の団員をしていた兄が、遠方への転勤により退団する事になったため、その代わりに「仕方な

く入団した」というものでした。入団するまでは、毎週のように、訓練や点検で出かける兄を見ていた事もあって、消防団にはネガティブなイメージしか持っておらず、正直、入団するのが嫌で嫌で仕方ありませんでしたが、いざ入団してみると、先輩方(私より年下の方もいます)が、とても親切、丁寧に指導して下さいるので、嫌な気持ちには直ぐに吹飛び、楽しく活動に参加できるようになりました。今では、年代も仕事も考え方も違う団員が、「地域を守る」という使命のもと、心をひとつにして活動に打ち込む一体感に心地よさすら感じています。

## 地区通信

### 文化財防火訓練実施中

#### 加西市消防団

加西市は播州平野の北側にあり、北部には山地が多く、南部は、広大な平野と丘陵からなっています。穀倉地帯として米の生産量も多く、加西ぶどう「ゴールデンベリーA」や小麦、大根、トマト等の生産も盛んです。一昨年、リチウムイオン電池の工場、「加西グリーンエナジーパーク」が稼動し始め、市内四箇所にある工業団地も含め市の活性化への期待が高まっています。

年末火災特別警戒、重要文化財防火訓練等、鋭意積極的に活動を行っています。

中でも一月に行う重要文化財防火訓練は、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、市民の文化財愛護思想の高揚を図ることを目的として、北はりま消防組合加西消防署と加西市消防団と合同で訓練を行います。北条町にある酒見寺多宝塔と坂本町にある法華山一乗寺三重塔において、出

火延焼中との想定のもとに寺管理人が自動火災報知機で火災を知らせると同時に二九番通



火延焼中との想定のもとに寺管理人が自動火災報知機で火災を知らせると同時に二九番通

います。また、入団して良かったと思える事は、地域とのつながりができた事です。同じ地域で暮らしているながら、普段はめったに顔を合わせる事の無い人と話をする機会ができて、地域に住んでいる人や、地域で起こっている問題をよく知る事ができる様になりました。

その中で、特に感じることは、自分の住んでいる地域が予想以上に高齢化してきているという事で、高齢者のみの世帯が増えてくる中、万一の火災や災害の時、地域に根ざした消防団の果たす役割は益々重要になって来ると感じています。

今後も、先輩方の指導を受けながら、地域の期待に応えられる、頼れる消防団員になれるよう、頑張っていきたいと思っています。



報、消防署及び消防団は通報と同時に出勤し、消火活動及び延焼防止を図るため、放水中継訓練を実施します。消防団幹部、消防署、寺関係者、教育委員会等が一丸となつて消火活動を行うことで、いかなる災害がおきても迅速、的確に活動が出来るように訓練をしています。

また、今年度は「予防消防」を目標に掲げ、増加傾向のある火災件数を少しでも減少できるように各分団が各地域での防火活動に専念するよう意思統一を図っています。

今後も「安全安心のまちづくり」のため、消防団が地域防災の要としての役割を果たせるよう、更なる鍛錬に励み、地域住民から信頼される消防団であり続けるように努めているところです。

## 消防団今昔

### 災害に強い たつの市を目指して

たつの市消防団 団長 田中 旭



たつの市消防団は、平成一七年一〇月の市町村合併に伴い、平成一八年四月に龍野市、新宮町、揖保川町、御津町の一市三町合併により組織されました。

現在分団数は四七分団、団員定数は一、五〇〇名となりその一歩を踏みだしました。

また、機動力としてはポンプ車二台、小型動力ポンプ積載車二七台で安全で安心して暮らせるたつのを目指し、日夜レッドパトロールの実施など地域に密着した活動を行っています。

消防団員の高齢化、新入団員の確保など多くの課題がのこされている中で、昨年発生した東日本大震災や九月の台風二一・二五号災害など、全国各地で甚大な被害をもたらし、ますます地域住民が消防団に対する期待は高まるばかりです。

この災害を踏まえ、昨年は消防本部・消防団・自主防災組織など参加のもと津波対応訓練を行い、消防団員は市民の避難誘導、消火訓練・炊出し訓練など



を実施し地域との連携訓練も行いました。

これからも、災害に強いまちづくりを目指して、訓練に磨きをかけ、地域の防災の要となるよう一致団結してたつの市を守っていきます。

## 編集後記

寒さも和らぎ、日増しに春らしくなつてまいりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号の一面、二面、三面には(財)日本消防協会の表彰式、総務省消防庁長官表彰式について掲載しております。また今月号についても各地区から多数寄稿いただき、ありがとうございます。

今月号で平成二三年度分の兵庫消防は最終号となりました。これまでの皆様方からの多数のご寄稿、ご愛読に対し、厚くお礼申し上げます。来年度の「兵庫消防」についてもご愛顧のほどよろしくお願ひします。

【事務局からのお知らせ】  
「兵庫消防」四月号は休刊させていただきます。